

自昭和十二年十一月二十三日
至昭和十二年十一月二十四日

朱吳洲附近戰鬥詳報

第二號

步兵第百五十聯隊

2172

朱吳村附近戰鬪詳報

步兵第百五十聯隊長
陸軍步兵中佐山本重惠

第一戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一 戰鬪前ニ於ケル彼我一敵ノ態勢附圖第一ノ如レ
十一月二十二日午後七時頃左記旅團命令ヲ受領ス

步兵第百三十八旅團命令
十一月二十二日午後五時十五分
於昇山市東側

- 一 國崎支隊ハ目下八里店附近ノ敵ト交戰中ナリ
- 二 旅團ハ從前ノ部署ヲ以テ八里店ニ向ヒ急進セントス
- 三 先遣隊ハ前任務ヲ續行シ密ニ國崎支隊ト連絡ス
ヘレ

- 四 前衛ハ昇山市―湖洲道ヲ八里店ニ向ヒ前進スヘレ
本隊トノ距離四〇〇米夜間ハ二〇〇米トス
- 五 爾余ノ諸隊ハ本隊トス行軍序列故ノ如レ
- 六 師團徵發隊ハ本隊ノ後尾ヲ續行スヘレ

七 余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

旅團長 奥 少將

右命令受領後聯隊ハ兵力ヲ集結シ前進準備ヲ
整ヘアリレカ午後九時頃昇山市附近ニ露營スヘ
キ命令ヲ受領ス

翌二十三日拂曉左記命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令十一日十三日午前八時
於昇山市西端

一 敵ハ八里店附近ニ陣地ヲ占領シ其第二線陣地

ハ湖洲東端附近ニ在リ

二 聯隊ハ旅團本隊トナリ敵ヲ攻撃ノ目的ヲ以テ本

道上ヲ八里店ニ向ヒ急進セントス

三 行軍序列左ノ如シ歩兵第百十五聯隊ノ後尾ヲ續

行スヘシ

$\frac{1}{3}$ 4

6

ITL

4(- $\frac{2}{3}$)

RNG

7(- $\frac{2}{3}$)

iA

$\frac{1}{3}$ 7

四、余ハ聯隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

第二戰鬪經過ノ概要

前記行運序列ヲ以テ前進中午後零時三十分郭家埭東方約一軒附近ニ於テ俄然前方ヨリ敵ノ猛射ヲ受ケ聯隊ハ直ニ道路ヲ開放シテ停止レ前衛タル歩兵第百十五聯隊ニ連絡セルモ的確ナル敵情ヲ得ス直ニ聯隊機關銃隊ヲシテ前方ノ重機ヲ射撃セシム

午後一時三十分左記旅團命令ヲ受領ス
歩兵第百三十八旅團命令 土月三十分午後時十五分
於陸家汪西端本道上

一、敵ハ前方ヲクリーク對岸ニ在リ

ニ旅團ハ一部ヲ以テ本道方面ヨリ主力ヲ以テ本道北側地區ヨリ前面ノ敵ヲ攻撃セントス

爾今前衛ヲ聯隊長ノ指揮下ニ復歸セレム
四歩兵第百五十聯隊(第六中隊欠)ハ約一小隊ヲ以テ郭
家埭東南方閉鎖曲線高地ノ敵ヲ主力ヲ以テ歩
兵第百十五聯隊ノ右ニ連撃シ當面ノ敵ヲ左側ヲ
包圍攻撃スヘシ

他ノ一中隊ハ旅團豫備トス直ニ本道ヲ急進セ
レムヘシ

五工兵小隊ハ豫備隊トス現在地ニ停止スヘシ
六余ハ陸家汪西南本道上ニ在リ

旅團長 奥少將

旅團命令右ノ如クナルモ聯隊ノ兵力歩兵四ヶ小隊外ニ
重火器部隊アルノミナルヲ以テ獨斷兵力ヲ變更シ迅速
ニ左記要旨ノ聯隊命令ヲ下達ス

聯隊命令要旨

一 敵情諸官ノ知レル通り

旅團ハ一部ヲ以テ本道方面主力ヲ以テ本道以北ノ地
區ニ展開シ重点ヲ當聯隊正面ニ保持シ當面ノ敵
ヲ攻撃ス

二 聯隊ハ右第一線トナリ當面ノ敵ヲ攻撃セントス

三 第七中隊ハ半小隊ヲ以テ郭家埭東南閉鎖曲線高
地ノ敵ヲ攻撃セシムヘシ

四 第四中隊(三小隊欠)機關銃一小隊ヲ附スハ第一線歩兵
第百十五聯隊ノ右翼ニ連繫シ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ
五 第七中隊ノ殘部ハ旅團豫備隊トス速ニ本道ヲ前
進シ旅團長ノ指揮下ニ入ルヘシ

六 聯隊機關銃ノ殘余ハ第四中隊ノ右ニ展開シ同中隊
ノ攻撃ニ協カスヘシ

七、爾余（第四中隊ノ一小隊）ハ豫備隊トス。第四中隊ノ
後方ヲ前進スヘレ、但レ平射歩兵砲ハ隊及行
李ハ第六中隊方面ニ在リテ、其後方ニ位置スヘレ
ハ通信班ハ旅團司令部。聯隊本部及第四中隊
間有線連絡ニ任スヘレ。
九、余ハ第四中隊ノ後方ヲ近ク前進ス。

聯隊長 山本歩兵中佐

第四中隊ハ敵ノ猛射ヲ受クルモ適時之ヲ制壓シ歩
兵第百十五聯隊ノ右翼ヲ永メテクリク、切レ目
ヲ搜索シツ、機敏ニ横行シ朱呉村南方閉鎖曲線
ノ高地脚ニ至ル。
他ノ諸隊之ニ續キテ前進シ、右方ニ移動中敵機關
銃ノ集中射撃及位置不明ノ掩蓋輕機關銃ノ狙撃
ヲ受ク。聯隊機關銃主力之ヲ制壓ニ努メタルモ負傷

者若干ヲ生スルニ至レリ

各隊ハ逐次兵力ヲ集結シ、横行運動ヲ敢行シ
高地脚ニ於テ旅團ノ先遣隊タリシ第五中
隊第六中隊（小隊欠）第七中隊
隊欠）ヲ掌握シ一先ス聯隊ノ全兵力ヲ集結ス時ニ
午後五時三十分ナリ

爾後戦闘遂行ノタメ乍候ヲシテ渡河点及舟筏ヲ搜
索セシメ更ニ將校及下士官ヲ派遣シテ旅團司令部並
歩兵第百十五聯隊ト連絡シ之ヲ偵察ニ勉メタリ

午後七時頃左記旅團追加命令ヲ受領ス

一第一線各隊ハ朱吳村南方閉鎖曲線高地郭家
埭ノ線ニ到着セハ一小部隊ヲ前方ニ出シ搜索據
点ヲ占メ前方ノ敵情地形ヲ搜索スヘレ

ニ主力ハ敵陣地後端ニ停止シ後命ヲ待ツヘレ

三 先遣隊ハ自今聯隊長ノ指揮ニ復歸ス

午後九時頃有候ノ報告ニヨリ歩兵第百三十七旅團ハ
朱呉村南側ニ於テ工兵ノ協力ニ依リ「クリーク」ヲ渡河
スルノ報告ヲ受ケ之ヲ旅團長ニ報告スルト共ニ當旅團モ
亦同所ヨリ渡河シ攻撃準備ヲナスヘク意見具申ヲナス
午後一時頃尤記旅團命令ヲ受領ス

歩兵第百三十八旅團命令十一月二十三日
於陸家汪本道上

一 陸家汪西南本道上ニ於テハ敵情ニ就キ新報ヲ
得ス

二 旅團ハ一部ヲ以テ本道方面ヨリ主力ヲ以テ本道以
北ノ地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃セントス
攻撃ノ重点ヲ歩兵第百五十聯隊正面ヨリ敵陣地ノ
左翼ニ指向ス

步兵第百十五聯隊ニ連繫シ當面ノ敵ヲ攻撃スヘシ
第一線兩聯隊ハ午前三時ヨリ渡河ヲ開始シ午前六
時三十分迄ニ攻撃準備ヲ完了シ各々當面ノ敵ヲ
攻撃スヘシ

攻撃前進ノ時機ハ午前八時十五分トス（配屬砲
矢ノ効力射終了ノ時期）及電話ヲ以テス

四 第一線奪取後ノ處置ハ別命ス
五 工兵小隊ハ第一線兩聯隊ノ渡河作業終了レタ

ル後陸家汪西方無名部落ニ於テ豫備隊タルヘシ
六 豫備隊タル步兵第百五十聯隊ノ第七中隊ハ
午前七時三十分迄ニ陸家汪西方無名部落ニ至リ
第一線ノ攻撃前進ニ伴ヒ其中央後約千米ヲ前
進スヘシ

七 余ハ午前六時三十分現在地ヲ出發シ豫備隊ノ位置ニ至

至ル

旅團長

奥少將

第二項ノ追加

野砲兵第百三十聯隊第十二中隊及野戰重砲
兵聯隊ノ一部旅團ノ戦闘ニ協力ス

歩砲協定事項凡ノ如シ

1. 旅團ノ戦闘ニ方リ砲兵ハ一部ヲ以テ本道方面ノ
歩兵部隊ニ主力ヲ以テ重點方面ノ歩兵部隊ニ
協力スルヲ旨

2. 射撃ノ時機

午前八時ヨリ八時十五分迄

爾後射程延伸

3. 連絡記號

射撃中止

各中隊目ノ凡ヲ二本上下ニ振ル

射撃復行

各中隊日ノ凡ヲニ本両午ニテ頭上
左右ニ振ル

4. 敵陣地目標番號

本道上方面ノ敵陣地

主力方面ノ敵陣地

主力方面後方ノ重機

注意

1. 危険豫防上以上ノ記號ヲ明確ニ實施スルコト

2. 戦闘地境ハ圖上ヲ示サルニ付各聯隊間ニ於

テ協定ノコト

3. 渡河後ニ於テモ電話線ヲ延スコト

右命令ニ基キ左ノ命令ヲ下達ス

歩兵第百五十二聯隊命令
於十月三十一日正午
於米奥村南側高地脚

一 敵情ニ關シテハ新報ヲ得ス

旅團ハ一部ヲ以テ本道方面ヨリ主力ヲ以テ當聯隊方面ヨリ敵ノ左側背ヲ攻撃ス
野戦重砲、野砲ハ一部ヲ以テ本道方面主力ヲ以テ當聯隊方面ニ協力ス

二 聯隊ハ先ツ朱吳村附近ニ兵力ヲ集結シタル後同村西方小流附近ニ攻撃ヲ準備セントス
攻撃ニ際シテハ前後庄ヨリ湖洲東端學校ニ通スル小流以西ノ地區ヨリ同小學校附近ノ敵ノ攻撃ヲ企圖ス

三 第二大隊(第八中隊、第六中隊、一小隊、第二機關銃中隊(一小隊欠))ニ聯隊機關銃ニ小隊ヲ屬スハ第一線トナリ朱吳村西方約五〇〇米ノ橋梁附近ヲ左翼トシ其西北方三〇〇米橋梁ニ亘ル間ニ攻撃ヲ準備スヘシ

特ニ一部ヲ以テ右翼方面ヨリ湖洲東端學校附近及湖洲北門附近ノ敵情進路ヲ搜索セシムヘシ

四 爾余ハ豫備隊トナリ朱吳村北端ニ位置スヘシ

五 砲兵トノ協定事項カノ如シ

一 射撃時機

午前八時ヨリ午前八時十五分迄

爾後射程延伸

二 連絡記號

射撃中止

日ハ丸ヲ二本上下ニ振ル

射撃再開

日ノ丸ヲ二本左右ニ振ル

六 攻撃準備ハ午前六時三十分迄ニ完了スヘシ

七 通信班ハ聯隊本部第二大隊本部間ニ有線通信網ヲ構成スヘシ

八 余ハ午前六時三十分豫備隊ノ位置ニ在リ爾後

第一線ノ後方ヲ前進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

二十四日午前三時第二大隊ハ渡河ノタメ前進ヲ開始
ス聯隊主力ハ小澤小尉ヲレテ渡河作業隊ト連絡
シメ午前四時十五分出發渡船場ニ至リ五隻ノ船
ニ依リ渡河シ死節時ナク同^五時三十分渡河ヲ完了ス
第三大隊ハ午前六時朱吳村ニ至リ攻撃ヲ準備ス
聯隊長ハ午前六時三十分朱吳村西端ニ至リ歩兵第百十
五聯隊長ト會見シ聯隊ノ企圖戰鬪地境等ニ付協定
ヲ遂ケタリ

午前八時頃ヨリ砲兵ハ豫定ノ如ク射撃ヲ開始シ砲彈
盡ニ湖洲市内ニ破裂ス

午前八時三十分攻撃前進ニ移リタルモ砲兵ハ依然射
撃ヲ繼續シアルタメ射撃中止ヲ要求シ城壁近ク肉
迫ス

午前九時頃城壁及前方部落ヨリ敵ノ猛射ヲ受ケタル爲聯隊ハ一時傳言モ如ク處置ス

1. 聯隊機關銃ハ各一小隊ヲ以テ右煙突部落ノ方面及北方獨立家屋方向ニ對シ陣地ヲ占領セシメ敵ヲ求メテ射撃スヘシ

2. 第四中隊ヨリ乍候ニ組ヲ出シ右方ノ部落及獨立家屋方向ノ敵情ヲ搜索スヘシ

3. 爾余ノ諸隊ハ地形ヲ利用シテ停止スヘシ
各乍候ハ午前九時三十分歸來シ該方面ニ敵兵ナキ
フキヲ報告ス

次テ第四中隊ノ一小隊ヲシテ發電所ノ占領ヲ命
ス

第三大隊ハ敵火ヲ冒シツ、湖洲東端ニ至リ攻撃目
標タル學校ノ所在ヲ搜索シツ、城壁及橋梁ニ據ルハ

敵ヲ攻撃ス

聯隊長第二大隊長ノ許ニ至リ當面ノ敵情及地形ヲ聽取シ第三大隊ハ極力此敵ヲ攻撃スヘク命ス午前十時三十分聯隊長ハ第四中隊ノ奪取シタル發電所ニ到リ該方面ノ敵情地形ヲ搜索セシム之レヨリ先歩兵第百十五聯隊ハ「クリーク」に滯留シ聯隊ノ在ニ地域ナキ爲右第一線ニ進出ス

第二大隊正面特ニ橋梁及附近家屋ヲ占領シアル敵ハ土囊叢掩蓋ニ據リ外周ノ「クリーク」ヲ障礙ニ利用シ頑強ニ抵抗ス

第一線ハ力攻ヲ重ネ漸次敵ニ肉迫レ敵ニ大ナル損害ヲ與ヘ更ニ折カラノ風向ヲ利用レ敵前ノ家屋ニ放火シ敵ヲ困惑セシメ薄暮ノ突入ヲ準備中友軍飛行機ヨリ附圖第三ノ如キ通報ヲ受ケ聯隊長ハ残

敵ノ掃蕩ヲ中止スルモ敗退スル敵ヲ追撃スルヲ
緊要ト判断シテ記聯隊命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令 十月二十四日午後三時三十分
於湘洲發覺所

一敵ハ算ヲ乱シテ主力ハ長興ニ一部ハ廣徳ニ向ヒ
退却中ナリ

第六中隊ハ東門ヲ占領シ國崎支隊及第十八
師團ハ南門ヨリ城内ニ進入中ナリ

師團主力ハ湖洲北側地區ヨリ敵ヲ長興ニ向ヒ
急追ス

二聯隊ハ殘敵ノ掃蕩ヲ中止シ即刻長興ニ向ヒ
敵ヲ急追セントス

三第四中隊ノ一小隊ハ步兵トナリ現在地出發本隊
前方約二〇〇米ヲ現在地―湖洲北門―長興新
道ヲ長興ニ向ヒ前進スヘシ

四爾余ハ本隊トナリテ記順序ヲ以テ前進スヘレ

日
TL
4(- $\frac{2}{3}$)
RMG
 $\frac{1}{84}$

五第三大隊ハ速ニ掃蕩ヲ中止レ本隊ニ追及スヘレ
六余ハ本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

午後四時同地ヨリ前進中湖洲北門ノ東方約一〇〇米
橋梁附近ニ於テ旅團司令部及歩兵第百十五聯隊
ニ合ス

第三 戦闘ニ影響ヲ及ボレタル天候

氣象地形ノ状態

一 天候

兩日共天氣晴朗ニシテ戦闘遂行上好都合ナリキ
日出 午前七時二十分

二 氣象

日没

午後六時三十分

二十三日ハ西南ノ風強ク音聲ニ依ル連絡ハ稍困難ナリ

氣温ハ零下一度ヲ最下限トシ戰鬪上並ニ衛生上何等顧慮ヲ要セス

三 地形

附近一帯ハ高地點在スル外平地ナリ

平地ハ大小「ク」リ「ク」シ。縱横交錯シ水田亦連日降雨後ノタメ浸水シアリテ「ク」カ「ク」ハ橋梁ニ乏シク

爲ニ部隊ノ運動ハ甚シク困難ヲ極メタリ

桑畑ハ中川ニシテ枯葉アリ展望ヲ妨ケ陸家

汪ヨリノ右方ニ移動スル爲良好ナル遮蔽物ナリ

城壁ヲ圍繞スル「ク」リ「ク」ハ巾約五十米深サ四五米ノ

一、友軍ノ兵力

歩兵第百五十聯隊本部

通信班

第四中隊（一小隊欠）

聯隊機關銃隊

歩兵砲（平射一分隊）

第六中隊ノ一小隊

第三大隊本部

第八中隊

第三機關銃中隊（一小隊欠）

本道ニ設置

午前四時以後

午後五時三十分以後

ニレテ橋梁ニ至レテ梯ニ存在スル橋梁ハ敵之ヲ守
備シ土嚢ヲ以テ掩体ヲ築キ頑強ニ抵抗セリ

第四交戦セレ彼我ノ兵力敵團隊號

將帥ノ氏名編制裝備及戦法

備考

一、6(5) 12IM_g ハ本道上ヨリ旅團直轄トシテ攻撃

二、第7中隊主カハ旅團豫備隊一部ハ九第一線トシテ攻撃

三、4 136 37 IM_g(5) ハ北澤大尉ヲ指揮官トシテ師團徴發隊

四、第五中隊ハ十一月二十日ヨリ野戦重砲兵ノ掩護

敵軍

1. 敵ノ兵力 朱吳村―郭家埭附近

湖洲北端附近

約 一大隊

約 二中隊

2. 蒋介石ノ直系ノ精銳ナル中央軍ニシテ自動火器

多数ヲ有シ素質裝備良好ナリ

3. 陣地編成及戦法

不 朱吳村―郭家埭附近

京山市附近ノ陣地及湖洲城ト連繋スル数線

陣地ニシテフクリークヲ障碍物ニ利用シ半永

久野戰陣地ヲ編成シ極メテ巧ニ遮蔽シアリ
湖洲北端附近

湖洲城壁ハ萬ヲ以テ偽装シ全周ニ掩蓋及
各個掩体銃眼ヲ設ケ其ノ前線ハフクリーク
外周ノ部落ニ防禦編成ヲ施シ縱深配備ヲ
採用シ巧ニ遮蔽セル堅固ナル陣地ナリ
4. 戰法

陣地編成ニ依リ差異アルモ湖洲城外陣地ハ支
那軍獨得ノ吸引戰法ナリ又湖洲城ハ純然タ
ル固守防禦ニシテ其ニ自動火器ヲ以テスル急
襲的集中射撃ニ依リ殲滅ヲ期シアリ

第五、戰鬪ノ成績

一、彼我ノ損害
不友軍

敵軍 死傷 損耗

附表其一ノ如シ
附表其三ノ如シ

遺棄セル死体

五〇

鹵獲品

附表其二ノ如シ

二 効果

難攻不落ト信レ頑強ニ抵抗セル敵ノ側背殊ニ
退路ヲ脅威レ國崎支隊及第十八師團ノ南方ヨ
リスル進撃手ト相俟テ遂ニ敵ヲシテ湖洲平地一帯
ニ股ル数線陣地ヨリ敗退スルノ已ムナキニ至ラシメ
軍ノ南京ニ向フ進撃ヲ容易ナラシメタリ

第六 將來參考トナルヘキ所見

一 各級指揮官特ニ前方ニ在ル部隊ハ兵隊令ノ敵ガニ
陷ラサル範圍ニ於テ作候或ハ小部隊ヲ派遣シ

適時情況ヲ明ニスルヲ要ス 展開ノタメ部隊ヲ
横方向ニ移動スルノ巨ムヲ得サルカ如キコト
アラシカ 敵及地形ノ障礙ヲ受クルコト甚レク
爲ニ企圖ノ遂行ニ支障ヲ與スニト大ナリ 又中隊
ニ至ル迄道路上近距離ニ地形搜兵ヲ配置スルヲ
有利トスルコト多シ

ニ步兵聯隊ニ輕渡河材料ヲ裝備スルヲ要ス

水壕或ハ數條河川地帶特ニ橋梁ニ全シキ地帶ニ
作戰スル爲工兵ヲ來着ヲ待ツ邊ナキ場合ニ於テ
ハ著シク行動上ノ障礙ヲ受ケ爲ニ通時所望ノ
地點ニ到着スル能ハサルノミナラス徒ニ敵火ニ
曝露シ企圖遂行ニ頗ル不便ヲ覺エタリ

ニ徵發隊ハ運搬材料皆無ナル追撃間ニ之ヲ設
クルハ徒ニ第一線ノ戦力ヲ削減シ且追隨不可能ニ

テ何等給養上ノ効果ヲモ納メサリキ宜シク各部
隊ニ一任スルヲ可トセリ

四 各種火器ヲ以テスル狙撃能力ハ未タ十分ナラス

特ニ不明瞭ナル目標瞬間隱顯スル目標ハ戦場ノ常
ナルヲ以テ平時教育ニ於テ徹底的ニ訓練シ其能
力ノ向上ヲ圖ルト共ニ之カ適用ヲ誤ラサルヲ要ス
五 指揮機關ハ記號ノ使用ニ慣熟スルヲ要ス 特ニ
本作戦地ノ如ク水壕地帯ニ於テハ傳令ノ行動ハ
大ニ制限セラル、ヲ以テ指揮・行動ヲ銳重ニ陷
ラレムルニ至ル 平時ヨリ之カ訓練ヲ徹底シ戦時
勿々ノ間高能ク活用シ得サルヘカラス

六 地形地物ノ利用ニ就テ

敵火ノ下ニ於テハ其射向ヲ顧慮シテ地形地物ヲ利
用セサルヘカラス 然ルニ兵ハ本部或ハ指揮官ノ附

近ニ爆集スル弊風ヲ有レ爲ニ敵ニ好目標ヲ呈シ
其彈巢トナリ徒ニ損害ヲ招キ易シ又矢ハ不用
意ニ姿勢ヲ大ニスルモノ或ハ地物ヨリ地物ニ敏活ニ移
動スル運動能力ニ欠クルモノアリ平時教育ニ於テ之カ能
カ附與ニ付キ一段ノ注意ヲ要ス

又高カラサル城壁ノ攻撃ニハ市街戦ノ如ク附近ノ屋上
ニ階等ヲ占領シ急襲火力ヲ以テ攻撃スルハ有利ナリ

戦闘詳報第二號附表 其一

昭和十二年
十月一日
步兵第百五十聯隊死傷表

考 備	總 計	歩兵砲隊	聯隊機關銃隊	第四中隊	大隊		第二中隊	本部	通信班	聯隊本部	團隊分	
					第一中隊	第二中隊					將校	兵士
	二八	一	五	三	二	四	一	四	一	七	將校	兵士
	五六三	一八	七三	一〇五	二九	一六八	三三	四九	四六	四〇	將校	兵士
	一八		二					一四		二	馬匹	馬匹
											將校	兵士
											馬匹	馬匹
											將校	兵士
											馬匹	馬匹
	六			一			二		一	二	將校	兵士
											馬匹	馬匹
											將校	兵士
											馬匹	馬匹
											將校	兵士
											馬匹	馬匹

戦闘詳報第二號附表 其二

昭和十二年
十一月十四日
歩兵第百五十聯隊鹵獲表

種 類	區 分	員 數	備 考
戦 利	將校		一、銃砲ハ運搬材料ナキタメ焼却スハ、クリークニ投棄ス
	准士官		
	馬匹		
	銃	35	
	砲	1	
	銃彈	1,100	
	砲彈	60	
	器具		
	糧秣		

備考	計	聯隊本部	歩兵砲隊	聯隊機關銃隊	第四中隊	第二大隊	隊別 銃分		種類	費用		損失
							銃	小		彈	費	
	1,921	115			216	1,390	銃	小	彈			
	1,235				205	1,030	銃	機關銃				
	2,550			1,200		1,350	銃	機關銃				
							砲	歩射				
							砲	式九				
	16					16	他	其	藥			
							銃	小	式	損		
							銃	機關銃				
							銃	機關銃				
							砲	歩射				
							砲	式九				
							他	其	器			
							銃	小	彈			
							銃	機關銃				
							銃	機關銃				
							砲	歩射				
							砲	式九				
							他	其	藥			

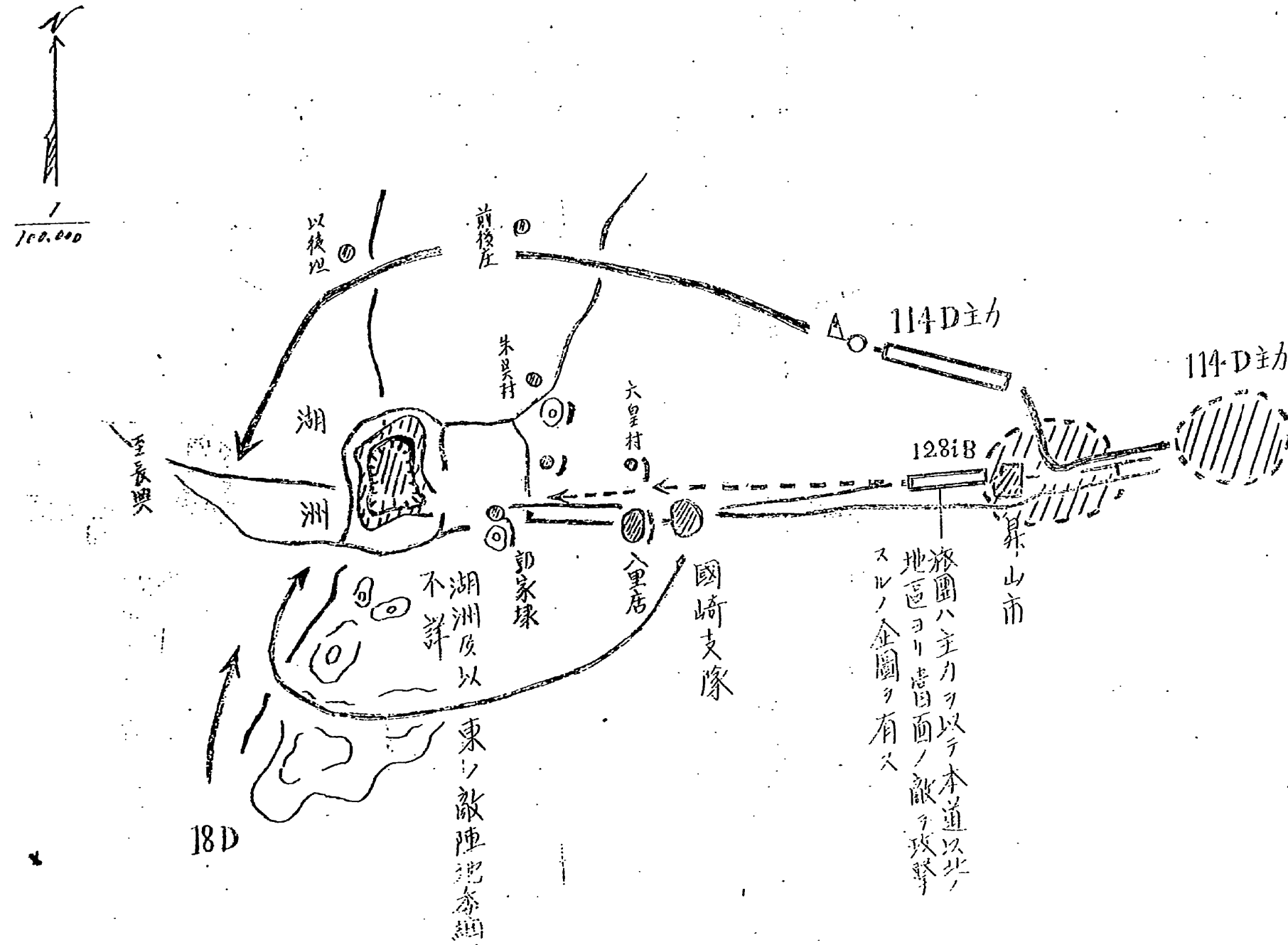
昭和十二年
十一月二十一日

歩兵第百五十聯隊武器彈藥損耗表

戦闘詳報第二號附表 其三

圖要勢形我彼ルケ於ニ前關戰
(朝日三十二月一十於)

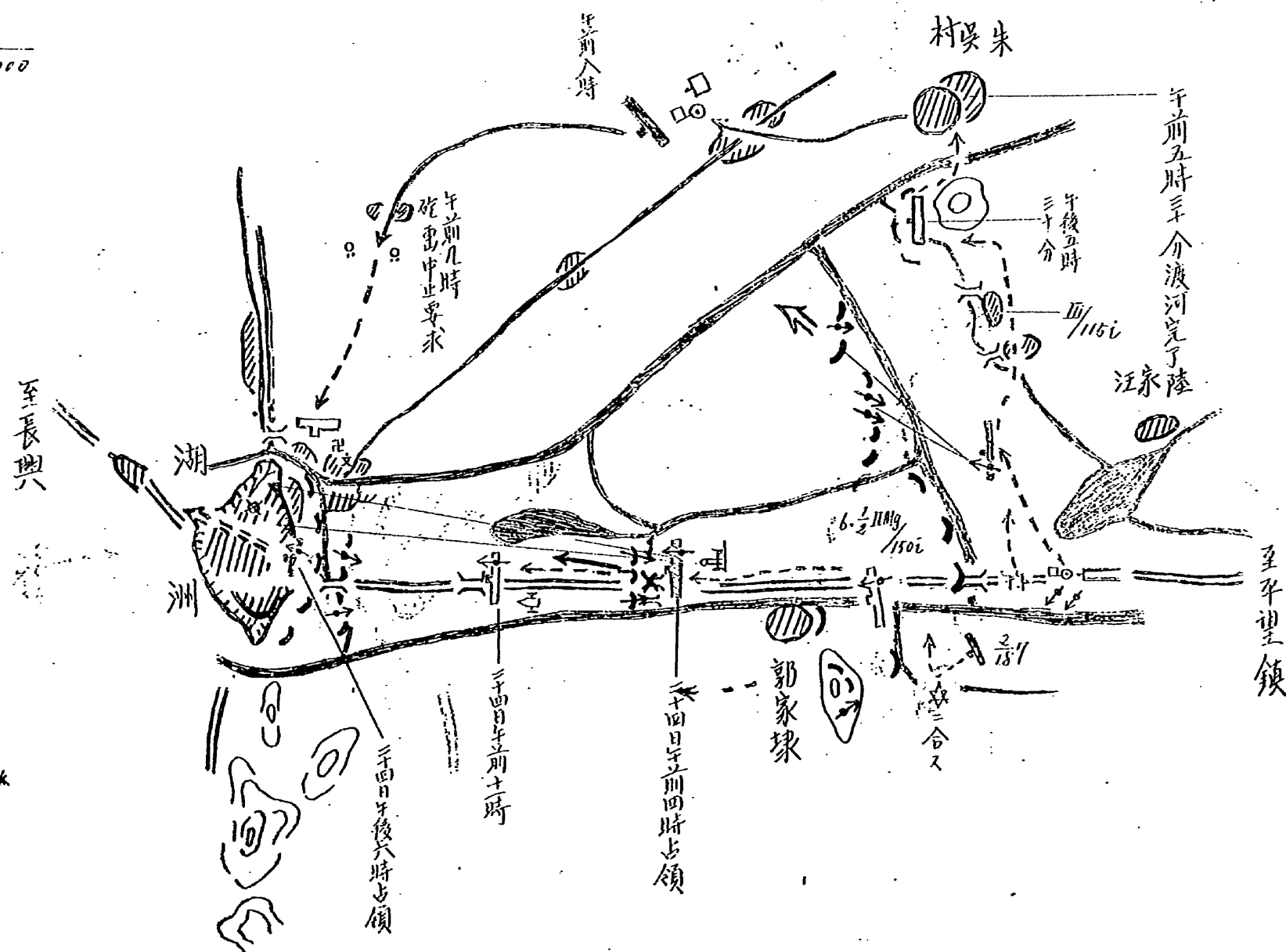
附圖第一



湖洲附近戰鬪經過要圖

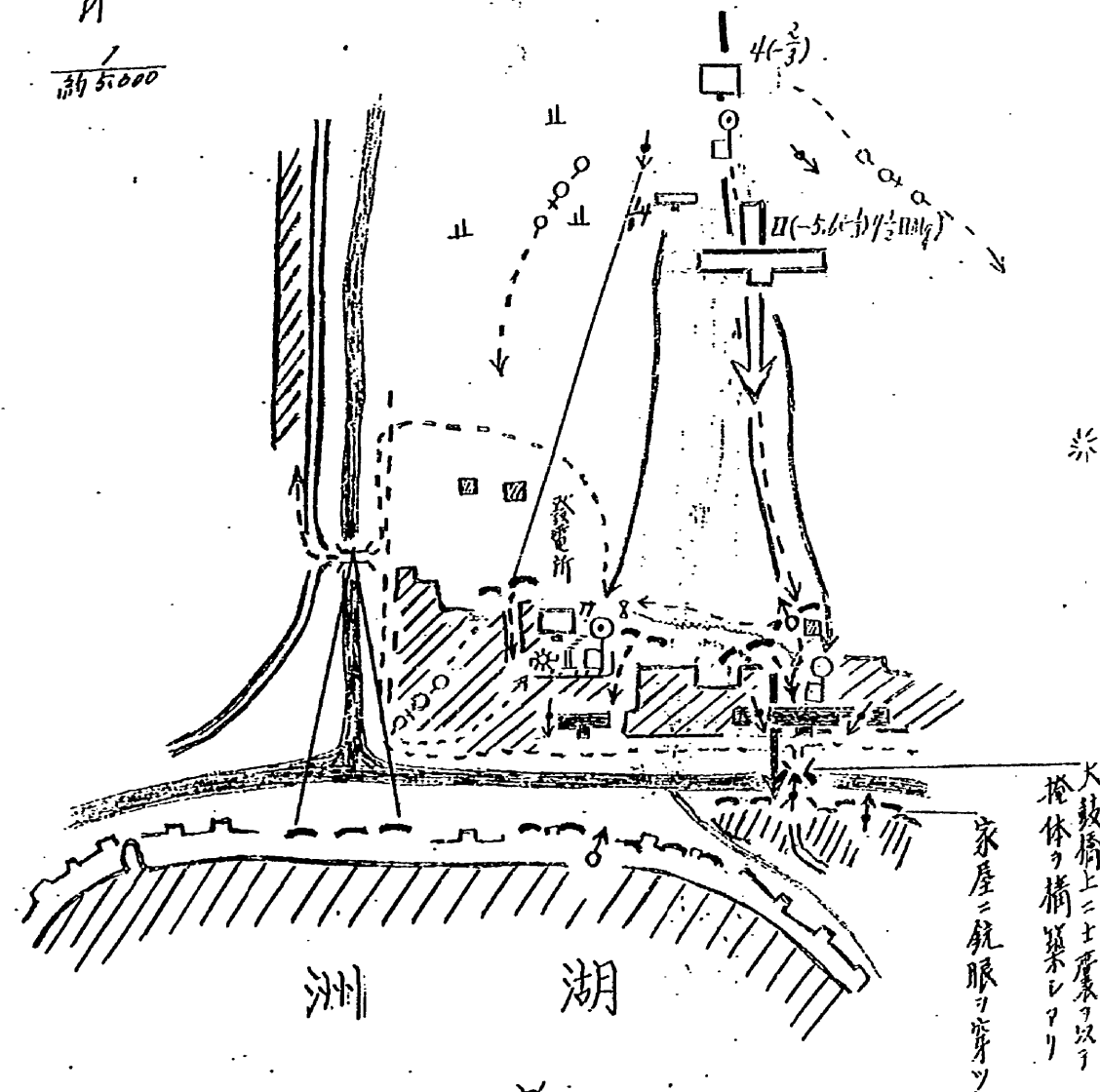
(自二十一年三月三十一日午後一時至
二十一年四月四日午前九時)

約 50,000



湖洲附近戰鬪經過要圖
(於十一月十四日午前九時以後)

約 5000



附圖第二其二

圖要報通機行飛

(領受時四後午日四十二月一十)

